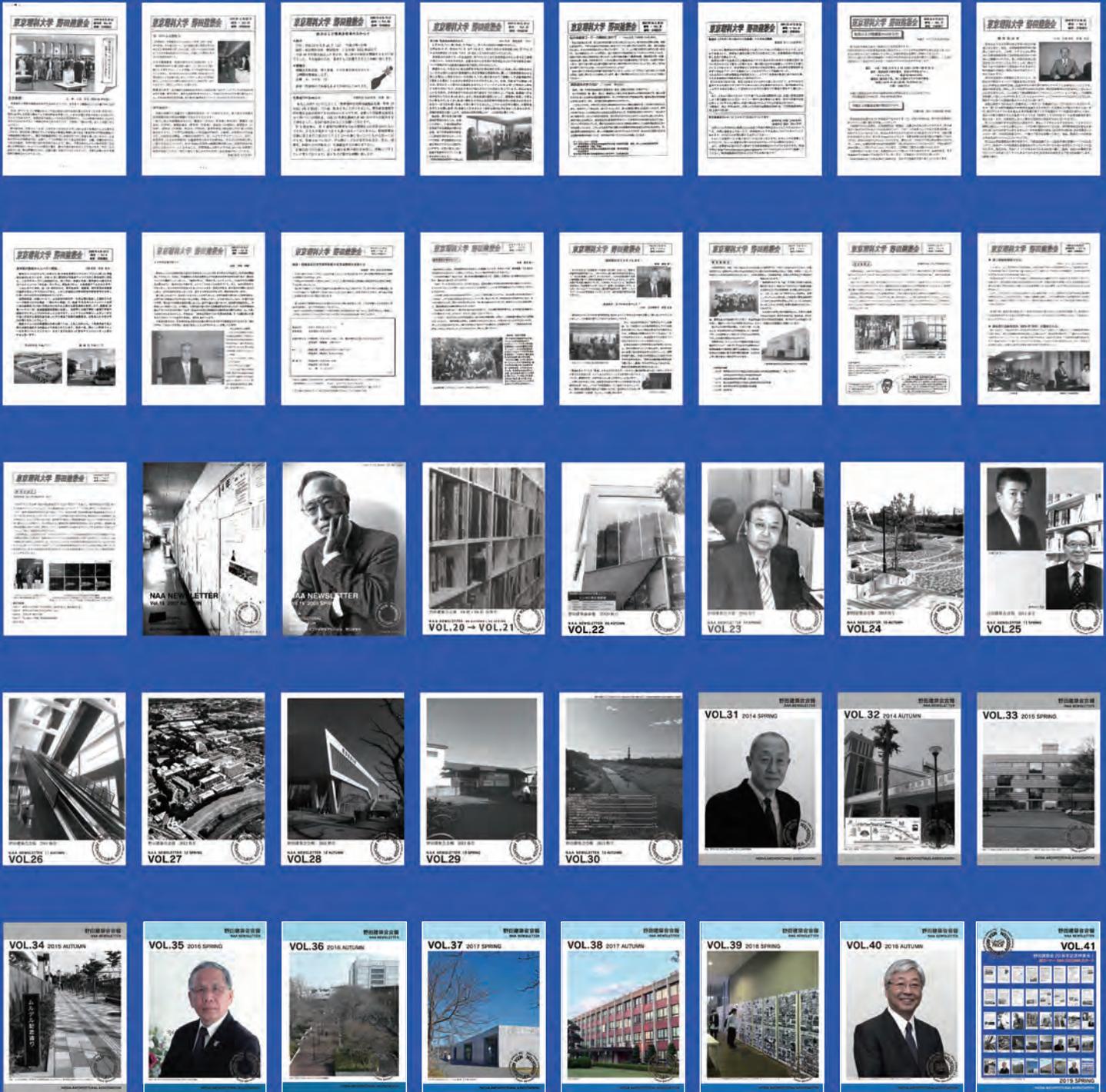


野田建築会 20周年記念特集号！  
 新コーナー NAA COLUMN スタート



1999年3月20日創刊号から最新号までの会報表紙一覧

**2019 SPRING**

**NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION**

## 20 周年イベント報告

菱崎 嘉昭 (1987 年卒)

小春日の穏やかな、平成最後の 11 月の最後の土曜日の午後、理工学部 2 号館 4 階の製図室において、野田建築会 20 周年記念イベントが開催されました。1 号館と 2 号館をつなぐイチョウ並木もまだ完全には紅葉しておらず、初冬にはまだ先のように感じた日よりでした。もっとも、この冬は、冬を伝える木枯らしはありませんでした。

当日は、理大祭が開催されており、2 号館までのアプローチには、学生サークルの出店の呼び込みと、イベントの仮装ダンスが行われているなんとも賑やかな状況でした。しかしながら、2 号館 4F の建築学科は、やわらかな、そしてどこか懐かしい西陽が差し込む静寂な、これが常時と同じ感じなんだろうと容易に想像できる様相でした。イベントは、そんな一画で、OB の講演&コンサートと記念懇親会の二部構成で開催されました。



企業パネル展示会場にて③



企業パネル展示会場にて①



講演&コンサート風景



企業パネル展示会場にて②

コンサート？と、これを読んでいる方は思ったと想像いたします。OB 講演には、2001 年卒業の行川さおりさんをお招きいたしました。行川さんは、大学時代よりジャズボーカリストとして活動されており、現在も、仕事と音楽活動を両輪で頑張っておられます。いわゆる建築の業界とは、少々違った世界で活躍されていることもあり、講演とコンサートをお願いいたしました。

講演&コンサートでは、学生と OB で約 100 名超が集まり、予定の時間を 30 分ほど延長するほど時間を忘れる、興味ある内容でした。行川さんは、学生の時から音と空間といったことを学びたかったようです。理工学部には、音の研究室がなく大学院は、別の大学で学ばれたとのことでした。講演では、音楽が創造するその場の空間について、述べられました。確かに、音楽が奏でられているとき、そこは、製図室であることは全く意識することなく、別の世界の中に浸っていたような、なんとも不思議な感じに包まれていました。ジャズは、その時々で感性で、それぞれが自由に音を奏でセッションするとのこと、その感性は、空間づくりも同じではないかとお話でした。たぶん、この部分には、感銘を受けた人もいたかと思います。

記念懇親会は、コンサートの余韻が消えないまま、そのまま、その一画で開催されました。OB 教員として、衣笠先生（理科大教授）にご挨拶を、佐藤先生（日本女子大教授）に乾杯の一声を頂戴いたしました。懇親会には、当日、研究室で勉強されていた大学院生にもたくさん参加いただき、50名ほどの賑わいとなりました。OB と現役大学院生との交流ができたことは、たいへん喜ばしいことだったと思います。

最後に、このようなイベントが、たびたびに開催され、OB のつながり、OB と学生をつなぐ、OB と母校の絆の結束に役立つことを祈っています。あわせて、これを読んだOB の方々、このようなイベントに、どんどん積極的にご参加いただきたく、お願い申し上げます。みなさんで、理科大理工学部建築学科の絆を築きましょう！



コンサート風景



当日の演奏者 ピアノ：木村秀子 ベース：土村和史 ドラムス：鳥山悠

### 行川さをり (2001 年卒)

東京理科大学理工学部建築学科在籍当時よりジャズボーカリストとして都内中心に活動。ボーカリスト Dianne Reeves に影響を受けてブラジリアンミュージックに傾倒し、2010 年にボサノバ・ボーカリストとしてデビューアルバムをリリース。日本人離れした湿度のある歌声として話題となる。その後、都内中心に演奏活動を続け、2 枚のアルバムをリリースしている。一方で、ポルトガル語に限らず、様々な言語特有の発音・発声の巧妙さと多彩さに影響を受け、独特な音響的ニュアンスを持った VOICE として、空間アートの活動も開始。最近では、笙・箏・声のアンサンブル、華や書、コンテンポラリーダンス、ライブペインティング等とのコラボレーションなど、活動の場を広げている。



## 会長のコメント

栗飯原 功一 (1985 年卒)

野田建築会（以下 NAA）は 20 周年を迎え、野田キャンパス 2 号館 4 階の建築学科フロアにて、記念イベントを開催することができました。NAA 発足依頼、会を継続されてきた歴代会長・役員をはじめとする皆様に感謝をいたすとともに、今回

の 20 周年記念イベントの企画、運営に協力いただいた学校関係者・関係各位に御礼申し上げます。

記念イベントは、野田キャンパスを巣立った OBOG が多方面で活躍している様を在学生にも伝えることを主眼とし、建築職場の今を伝える“企業 OB パネル展”と、ジャズボーカリストで活躍されている“行川さをりさん (2001 卒) の講演会&ミニコンサート”を企画しました。

参加された在学生 (3 年生) のイベントレポートを拝見すると、建築分野へより深い興味を持った意見や、自身の就活に対するヒントになった等、それぞれの想いを熱く語っている内容が多々あり、在学生の皆さんには、今回イベントの主旨を十分に伝えることができたと感じています。

今後も、様々な企画とともに卒業生、在学生との交流を深めていき、NAA の輪を広げていきたいとおもいます。



## 現役役員紹介 ～野田建築会を運営しているボランティアメンバーを紹介します～



会長・会報部会

**粟飯原 功一** 1985 年卒 井口研究室  
学部卒後、(株)竹中工務店に入社。現職、作業所長。葛飾キャンパスの開設工事に参画、図書館棟を担当。  
現在、理科大学工学部建築学科の施工授業で非常勤講師を担当。  
2018 年より、第 7 代会長。



副会長・名簿部会長

**涌井 栄治** 1985 年卒 井口研究室  
東京理科大学大学院修士課程修了後、井口研究室助手、建築系ソフト開発、建築構造設計事務所に勤務。現在は建築部材メーカーにて技術職。東京理科大学理工学部建築学科非常勤講師。



副会長・情報部会長

**高安 重一** 1989 年卒 奥田研究室  
東京理科大学助手を経て、アーキテクチャー・ラボ代表取締役。東京理科大学ほか非常勤講師。  
<http://architecture-lab.com/>



副会長・会報部会長

**とりやま あきこ** 2001 年卒 初見研究室  
一級建築士事務所あとりえ代表・二児の母。2003 年～2006 年 スターツ株式会社設計部所。2006 年 4 月 独立～。住宅・子ども園等、子育て目線のあたたかい建築作品を多数手がける。  
<http://atolie.com>



事務局長・事業部会

**五十嵐 洋也** 1978 年卒 上原研究室  
卒業後、約 7 年間、マンション開発テベロツパーの建築部門に就職。29 歳の時にその会社が倒産し、路頭に迷うも 2 年後にホテル開発テベロツパーに就職し、所謂バブル期に。しかし、バブル崩壊で会社消滅。39 歳の時、3 人で設計事務所を立ち上げ現在に至ります。



会計

**八田 直人** 1980 年卒 上原研究室  
1980 年 4 月～2014 年 4 月 株式会社熊谷組にて施工管理、開発事業、営業等に従事。2015 年 11 月～2016 年 10 月株式会社原マネージメントにて再開業業務等に従事。



会計

**白岩 和浩** 1985 年卒 上原研究室  
本籍、東京都目黒区、しかし実際は、生後半年で熊本県八代市に移動。その後東京に戻り高卒後少し時間をかけて理科大入学。1985 年 4 月熊谷組入社、横浜支店、大阪支店を経てケーアンドイー転籍。新築施工 16 年、改修施工 11 年、改修営業 7 年。<http://www.k-and-e.co.jp>



顧問

**山崎 晃弘** 1976 年卒 上原研究室  
1953 年 東京都台東区出身。総合商社トーマンなどを経て、2005 年工場改修専門の設計施工会社(株)ヤマザキ建築企画設計を設立、代表取締役。2010 年建築経済の研究を目的とする GMO 総研を併設、箱根まちづくりなどの NPO 法人日本景観フォーラム理事。



事業部会

**鈴木 雅也** 1982 年卒 武田研究室  
武田研究室で修士課程に進み、1984 年修了。前田建設工業株式会社設備設計部に就職、25 年在籍(機械設備担当)その後、三井不動産の技術子会社(MFAE)に転職し、10 年在籍(機械設備の CM 業務を担当)現在は、フリーランスとして、建築設備のアドバイザー&コンサルタント業務に従事中。



事業部会

**出塚 哲也** 1984 年卒 上原研究室  
大学卒業後は中堅ハウスメーカーであるクボタハウス(株)に入社し設計業務等に従事。その後、不動産コンサル会社を経て、現在はみずほフィナンシャル・グループの不動産シンクタンクである(株)都市未来総合研究所に勤務。



事業部会

**菱崎 嘉昭** 1987年卒 上原研究室  
穴吹工務店に努めています。設計部に所属し、主にマンションの設計に携わっています。現在の勤務先は、千駄ヶ谷です。休日は、時々、走っています（マラソンに参加しています）。



事業部会

**星合 善文** 1988年卒 上原研究室  
1988年 - 2010年 株式会社 梓設計、2011年 - 現在 日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 2013年 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修了 一級建築士、インテリアコーディネーター、CASBEE 建築評価員



事業部会

**野原 聰哲** 1988年卒 若松研究室  
学部修士まで、内装木材の燃焼性状を研究テーマに、筑波の建築研究所にて色々なものの燃焼実験を行う。現在は、竹中工務店の設計部設備課に所属し、研究所、工場などを中心に設備設計をしています。



事業部会

**佐久間 達也** 1993年卒 奥田研究室  
1970年 東京都生まれ / 1993年 卒業 / 1995年 修士課程修了 / 1995年 ~ 2000年 助手 (奥田研究室) / 2000年 佐久間達也空間計画所設立  
URL : <http://www1.odn.ne.jp/t-sak/>



事業部会

**秋山 貴洋** 1998年卒 武田研究室  
東京理科大学大学院修了後、2000年に高砂熱学工業に入社。技術研究所にて研究開発に従事。2008年、博士(工学)学位取得。現在は新規事業開発部門にてスタートアップとの連携推進を担当。



会報部会

**大野 芳俊** 1988年卒 奥田研究室  
1990年に東急建設に入社以来約30年間設計部に所属しいろいろな用途の設計をしてきました。現在はホテル・宿泊部門の設計グループリーダーです。中堅ゼネコンですので何でも設計をせざるを得ませんでした。いろいろなキャリアを積めたことは今となっては大きな財産です。



名簿部会

**小長谷 哲史** 2003年卒 奥田研究室  
東京理科大学卒業後ボストン大学大学院修了を経て建設コンサルティング会社で国内外の建設市場調査、建設プロジェクトのマネジメント業務等に携わる。現在は建設業に特化したポータルサイト「アーキブック」を運営。URL <https://archi-book.com/>



情報部会

**児玉 雅美** 2001年卒 井上研究室  
井上研究室で大学院修了後、2003年4月高砂熱学工業株式会社入社。施工管理→設計→人事(教育)→営業と渡り歩き、現在は設計部門に戻って主に省エネ改修提案に携わる。空衛学会など外部団体の委員会にも参加中。

監査役

**立見 栄司** 1970年卒 富澤研究室

監査役

**熊井 和雄** 1979年卒 上原研究室

## 寄付のお願い

NAAの活動は皆様の普通会員年会費(年額3,000円)を大きな支えとし、会報の広告料収入と有志の皆様からの寄付により運営されています。その構成比率は会費収入67%、広告収入25%、寄付8%(2018年度予算)となっています。今後さらに積極的な活動を行うには寄付の比率を上げる必要があります。NAAへ寄付を頂きますと会報にお名前を掲載させて頂くほか(もちろん匿名も可)、名刺掲載や個人広告等のオプションを考えています。詳しくは野田建築会ホームページからお問合せ下さい。

これを機会に是非皆様からの寄付を頂きますようお願い申し上げます。

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから—— <http://www.rikadaikenchiku.com>



NAA 受賞者一覧 ～第 1 回からの NAA 賞受賞者を振り返ります～

第 1 回 1998 年度 尾林久美子		第 8 回 2005 年度 安藤邦明		第 15 回 2012 年度 三縞宏徳 松永美咲	
第 2 回 1999 年度 杉山菜穂美	勉学に加え、海外でのボランティア活動による幅広い学生生活が受賞理由。	第 9 回 2006 年度 永田乃倫子	受賞後は東京工業大学に移り北陸新幹線開通に伴う区画整理事業区域内の環境づくり提案をしていると語られていました…。	第 16 回 2013 年度 星野善晴 井上遼	
第 3 回 2000 年度 西村猛 深井創平	車椅子で通学する同期のサポートに献身的に取り組んだ事が認められ両名が受賞。	第 10 回 2007 年度 キム・ユナ	キム・ユナさんは初見研究室に所属していて受賞されたという記録しかありませんでした。	第 17 回 2014 年度 曾澤大志	
第 4 回 2001 年度 木原勇信	謝恩会において賞状及び記念品が立見 NAA 会長より授与される。	第 11 回 2008 年度 洪章 (コウ・イ)		第 18 回 2015 年度 田中亮磨 佐藤航平 橋本由樹	
第 5 回 2002 年度 小林直輝		第 12 回 2009 年度 町田裕代		第 19 回 2016 年度 加古裕之	
第 6 回 2003 年度 菅原愛夏	受賞後も日々中国語の勉強に励まれ、若いうち海外に飛び出して働く！と夢を語られていたとのこと…。	第 13 回 2010 年度 丸木香澄		第 20 回 2017 年度 黄智寧 (ファンツーニンエリザ)	
第 7 回 2004 年度 胡震洪	受賞後は品質管理を学び日本と中国の間でビジネスを展開できるように頑張っていきたいと語られていたとのこと…。	第 14 回 2011 年度 大館由希子		丹治遥香 鶴巻瑛	

# 株式会社TUS ダイニング

※ 各種パーティーのお食事・お弁当等承っております。【学内】

神楽坂校舎  
(8号館・10号館・富士見)

TEL:03-3267-9651 E-mail: [order-kagurazaka@tus-dining.co.jp](mailto:order-kagurazaka@tus-dining.co.jp)

理恵会倶楽部

TEL:03-3269-1570 E-mail: [order-kagurazaka@tus-dining.co.jp](mailto:order-kagurazaka@tus-dining.co.jp)

萬籟校舎  
(食堂・セブンイレブン)

TEL:03-5699-2831 E-mail: [order-katsushika@tus-dining.co.jp](mailto:order-katsushika@tus-dining.co.jp)

野田校舎  
(カナル・みなも・けやき)

TEL:04-7125-2431 E-mail: [order-noda@tus-dining.co.jp](mailto:order-noda@tus-dining.co.jp)



野田キャンパスでの7年

やすはら もととき  
安原 幹



安原 幹 略歴

1972年 大阪府生まれ  
1996年 東京大学工学部卒業  
1998年 同大学院工学系研究科修士課程修了  
1998年-2007年 山本理顕設計工場勤務  
2008年 SALHAUS 設立、共同代表  
2011年-2018年  
東京理科大学工学部准教授  
2018年 東京大学大学院工学系研究科准教授

専門分野：建築設計・意匠



陸前高田市の仮設住宅団地で行った家具づくりワークショップ(2013年)

の核となっています。

南米やアジア諸国に毎年出かけ、その国独自の環境の中で醸成された建築や公共空間を対象として行った調査も、忘れられない経験です。そこで出会った刺激的な空間体験を記述するための言葉を探し、研究室で議論を積み重ねる中で、現代日本の建築に漂う

閉塞感を打破しうる、様々な視座を蓄積することができました。それらは、私や卒業生たちのこれからの設計活動に、大いに活かされていくと思います。

設計教育においては、小嶋さんが構築されたカリキュラムを引き継ぎ、私自身大いに学びながら、学生たちと濃密な実験や議論を繰り返した7年間でした。入学したての学生たちが、建築への情熱と空間という概念を、手と頭を駆使して学ぶ「空間デザイン及び演習」は、野田キャンパスのおおらかな環境下でこそ可能な名物授業と言えましょう。一線級の建築家が互いに刺激し合いながら出題するスタジオ課題、深夜まで妥協のない議論を続ける卒業設計の講評会など、教員同士が真剣な議論を繰り返す様子を、学生たちが間近に見て育つという、他の多くの大学で既に失われてしまった学びの循環がここにはあります。

私自身はこれから、新しい場所で新しいチャレンジを続けませんが、野田キャンパスが、これからもユニークな人材を建築界に輩出し続ける特別な学びの場であり続けて欲しいと、強く望んでいます。

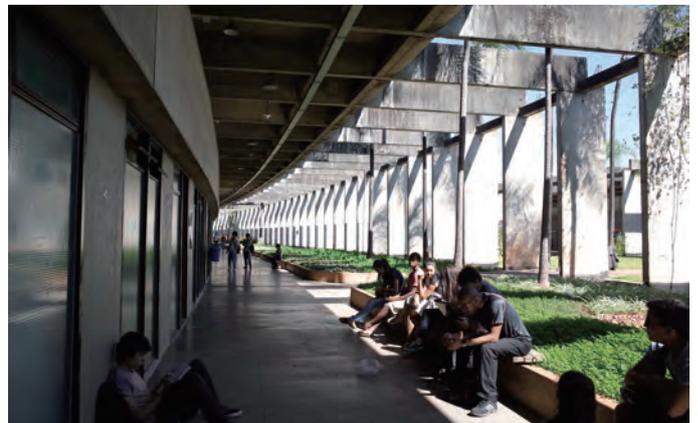
2018年3月をもって理科大を離れ、母校である東京大学で教え始めてまもなく1年が経とうとしています。慣れ親しんだ野田キャンパスを今、外から眺めてみると、それがいかに特別で、濃密な環境であったかを改めて感じます。

理工建築の設計教育を長年リードされていた小嶋一浩さんが横浜国立大学に移られることになり、その後任としてお声がけいただいたのが2010年のことです。あまりの重責に仰天、躊躇し、腕組みして考え込んだことを思い出します。独立したてで建築家としての実績も教職歴も皆無に近かった私に、教育・研究を通じた思索の場を与えて下さった建築学科の先生方のたいへんな度量の広さに、改めて感謝しています。7年という短い期間ではありましたが、建築家として、教育者としてかけがえのない経験を数多く得ることができました。



石巻市網地島で行った被害実態調査の住民報告会(2011年)

着任した2011年4月は、東日本大震災の発災直後でした。矢も楯もたまず、有志の学生たちと共に牡鹿半島の被害実態調査に出かけたのを皮切りに、その後も防災集団移転事業のサポートや、被災地における公共空間の調査などで、学生たちと共に幾度となく東北の被災地に通うことになりました。事務所で手掛けた陸前高田市の中学校の設計過程においては、ワークショップの企画・運営に沢山の学生たちがボランティアとして参加してくれました。それらの活動を通じて得た、「多くの人々の声に注意深く耳を傾け、その場所に本当に必要なものを共に考える」という経験は、現在の私の建築設計に対するスタンス



ブラジル、サンパウロにおける公共空間の調査(2014年)



美しい森をつくる。  
自分たちの手でつくる。

社会貢献を、ここから。高砂熱学の森

人・空・気・未・来  
高砂熱学工業

環境が「いい」!  
TakasaGo!

## 奥田研究室 OB 会 2018 年 10 月 21 日開催

ふくもり かずのり  
福森 一紀 (1991 年修了)

2018 年 10 月 21 日秋も深まる中、一昨年同様に渋谷区の代々木公園の噴水前で奥田研 OB 会が開催されました。今年は例年より暖かい日差しの中、それぞれ、飲み物、食べ物を持ち寄り、近況報告など話を花を咲かせました。奥田先生夫妻もお元気で、様々な活動を精力的にされているそうです。私は 5 年前から家族連れでこの OB 会に参加させていただいております。残念



ながら子供たちは理科大生ではありませんが、現在大学院、大学で建築を学んでいる娘と息子には多くの建築家、建築関係者からのお話には学びと気づきがあるようです。そしてお父さんへのリスペクトも。今年は持ち寄りの食べ物として、ホワイト餃子を持っていきました。練馬在住なので、流石に皆さん懐かしの野田店、柏店とは行きませんが、いつもお世話になっている高島平店の餃子を。あの、キツネ色に焼かれた、皮が厚く、小判型でそしてめっちゃ熱い(焼きたては)。皆さん懐かしそうに食べられていました。



日が暮れ、私どもは 1 次会で失礼しましたが、皆さんは恒例の 2 次会に向かわれました。また、来年も参加させていただきたいと思います。

## 卒業 25 周年 (1989 年入学者対象) 同窓会を終えて 2018 年 11 月 3 日開催

おおほま まさひろ  
大濱 正裕 (1993 年卒業)

平成元年という節目に入学した我々 23 期生。先日、25 年ぶりに同窓会を開催しました。アラフィフとなり働き盛りで普段は忙しくしている同窓生が、その日ばかりは都合をつけて全国各地から集い、楽しいひと時を過ごしました。職業も様々で、建築家、ゼネコン、公務員、メーカー、ディベロッパー、家具職人、医師、アパレル、専業主婦など、お互いの経歴に驚くばかり。当日、都合で参加できなかった方もメッセージをいただき「ホテルを運営しています」「娘が理科大に入学しました」など話題に事欠きませんでした。また、ありがたい事に奥田先生、武田先生、渡辺先生をはじめ野田建築会の粟飯原会長、高安副会長からもビデオメッセージやお手紙をいただき、会が盛り上がった事は言うまでもありません。



同窓会をして思うことは、単純に「また会いたい」ということ。そして感想で一番多かったのも「またやろう」。大学という濃密な時間を共有した仲間がこれっきりというのも寂しい。数年に一度集い、リタイヤした後もつながりを継続できるような場を作れればと思っております。最後に、忙しい中、打ち合せに集まってくれた幹事メンバー伊藤信明君、居林君、遠藤真人君、佐久間君、菊池君、藤末君、松山 (旧姓 岡本) さんには、本当に感謝です。23 期生の皆さん是非またやりましょう！

人をつなぐ、街を結ぶ、未来へ延びる。



 鉄建建設株式会社

本社：〒101-8366  
東京都千代田区神田三崎町二丁目 5 番 3 号  
TEL 03-3221-2152 (代表)

## 上原先生墓参会の報告

2018年12月8日

出塚 哲也（1984年卒）

2018年12月8日、上原孝雄先生が眠っていらっしゃる八王子の東京霊園に研究室OB10人で三回忌の墓参に行ってきました。

当日、14:30に最寄りのJR「高尾」駅北口に集合し、路線バスで霊園に向かいました。約6分で霊園の正門に到着しましたが、この正門が霊園の最高地点にあることからここからの景観は見事です。私は今回で3回目の墓参になりましたが、ここから景色をみるとなぜか晴れやかな気持ちになれます。そして訪れるたびに、「先生もこの景観が好きだったんだ。だからここに眠ることを決めただ。」と覚えてしまいます。

上原先生のお墓参りをしたいと思っている方、正門からの景観をみてみたい方、今度、機会がありましたら先生の墓参にご一緒しませんか？

参加者：S51 山崎晃弘、S53 五十嵐洋也、S54 沖田幸恵、S55 八田直人、S56 山岸順二、S59 出塚哲也、S60 白岩和浩、好士崎倫子、S62 菱崎嘉昭、S63 星合善文



## 上原研究室 OB 会

2018年12月8日開催

出塚 哲也（1984年卒）



2018年12月8日、「東京霊園」最寄りの「高尾」駅を16:18に出発しました。行き先は上原研究室OB会を開催する神楽坂キャンパス PORTA 神楽坂です。OB会は先生のお亡くなりになった2016年12月以来2年ぶりの開催になります。

2年前に船橋で開催したOB会には学生時代と同じ笑顔の先生がいらっしゃいました。皆、笑顔の先生に会いたくてOB会に参加していたのは間違いなかったと思います。だからこそ、先生がいらっしゃらない上原研究室OB会の今後は心配です。

でも皆さん、これから上原研究室のOBの中で、「誰でもいいから、一人でいいから、たまにはこいつに会いたいな。」と思える人を見つけませんか。「先生はいないけど、こいつがいるなら行ってみようか。」これから上原研究室OB会を続けていくには、こんな気持ちが必要と考えます。

参加者：佐藤克志、S51 山崎晃弘、S55 八田直人、S59 仲田正徳、出塚哲也、S60 好士崎倫子、S62 菱崎嘉昭、S63 星合善文、H4 小笠原雅人



TOKYO 東京ソラマチ Solamachi®

東武タウンソラマチ株式会社

〒131-0045 東京都墨田区押上一丁目1番2号

www.tokyo-solamachi.jp

東京ソラマチ 検索

## あしあと



ほりべ かずはる  
堀部 加壽春 (旧姓 齋藤)

1976年卒 (星野研究室出身)

さくらホーム (株) 代表取締役  
<https://www.happy-sakura.jp/>

昭和51年卒業ですが、48年のオイルショックの影響で、新卒採用無しが数年続いた最初の年でした。落胆することなく、好きなことをやってやろうと逆に奮い立ったものでした。

振り返れば、不純な動機で、建築の世界に足を踏み入れたものだから、この世界に落ち着き先を見出せず、何度か逃げ出すことを考えていた一、二年生でしたが、白井晟一氏とCarlo Scarpa氏の作品に出会ったことで、この世界に踏みとどまり歩み続けることとなりました。おかげで、ヴェネチア建築大学に1年のつもりが3年間遊学して、歴史はM.Tafuri教授に、C.Scarpa氏やA.Rossi氏の作品に直接触れることができ、またTafuri教授が、2年目から3年にかけてヴェネチアのルネッサンスの検証を行ってくれたので、A.Palladioに至るまで、またその後まで詳しく勉強することができました。イタリア各地の建築や都市を存分に味わったことは言うまでもありません。今振り返れば、私の大きな財産になってくれています。

ヴェネチア建築大学で忘れられない思い出の一つに、若い先生方が、『それぞれの面である壁、天井や床はそれぞれに違った意味を持っている』ので、それらを結びつける要素として中木や壁際や天井際は大切な『接続詞』であると、持論を熱く

語っていたことでした。このことが、それまで疑問であったScarpa氏の中木の多種多様なデザインや建築大学のインテリアの空間構成の基本理解の取っ掛かりになり、また接続詞の大切さに気づかされました。

3年目には、仲の良い友人が手配してくれてScarpa氏のスタジオ(当時のまま:2階)を見学させて頂く機会を得て、陶器二三雄氏を誘って見学させて頂きました。大感動!

帰国後は、徳島に帰郷し妻の実家の土木会社(創業百年以上)に結婚と同時に入社しました。

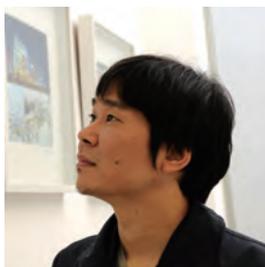
入社早々500区画の大規模宅地開発を任せられ、胃潰瘍に悩まされながらもなんとか形にし、住宅建築に手を広げ、今は土木会社もなくなりましたが、さくらホーム(株)という設計事務所工務店として、年間約30棟を供給しています。

阪神大震災のボランティアで、震災後1週間目の神戸御影高校での炊き出しと仮設の風呂づくりに参加し、休憩時間に自転車で町中を走り回りました。技術者として悔しくて、情けなくて、涙が止まりませんでした。地震の大きさよりも、家そのものの弱さもありますが、ちゃんと建てられていないことに悔しい思いがしたのです。星野先生から卒業時に贈られた「人身御供を必要としない技術者になって下さい。」の一言が鮮明によみがえってきたのです。

今は幸運にも坂本功東大名誉教授のご指導を仰ぎながら、基準法が想定する地震力の3倍の強さを持つ耐震力と温熱UA値0.46の性能を持つレベルに到達し、チェックとアフターも怠りなく、安心安全で快適な家を届けています。今後はより多くの家を届けるため、より安くを目標に無い頭を絞っています。

地方では、まだまだ生命、健康や財産等をしっかり守れる技術者が少ないのが現状のようです。若き後継者の出現に期待!

## 上海からアジアへ



うめざわ ごうたろう  
梅澤 豪太郎

2001年卒 (初見研究室出身)

【執筆者略歴】

1975年 シドニー生まれ

1999年

東京理科大学工学部建築学科卒業 (伊藤研究室)

2001年

東京理科大学理工学研究科修了 (初見研究室)

2001-2006年 中尾英己建築設計事務所

2006年 梅澤豪太郎建築設計事務所設立

2009年

Studio@ パートナー、Studio@ 東京設立  
<http://studio-at.net/>

上海のStudio@という会社にて五十嵐雄介(理科大卒)、栃原琢己と私の3人パートナーで設計活動をしています。私自身は、日本で独立していたのですが、ある出会いがきっかけ(これも理科大つながり)となり、中国での仕事に惹かれて、上海にきました。あっという間に10年が過ぎ、すでに日本よりも中国でのプロジェクトに長くかかわっています。

設計対象が、数百、多くても数千㎡だった日本に対して、中国では数万㎡と桁違いの大きさになりました。設計要求も具体性に欠けたかなりアバウトなものしかなく、最近でこそなくなりましたが、コンテンツや面積までこちらで提案する場合もあるくらいでした。当初は、規模や設計のレンジが違うことから、全く馴染めず、手間取りパートナーやスタッフに迷惑を掛けていたものでした。国が変われば、同じ設計といえども一括りにはできないことを思い知らされました。

そんな環境の中で仕事を続けてきたからでしょうか、最近では、設計だけでなく、企画段階からプロジェクトに参入するようなスタイルが増えてきています。

現在ベトナムで進行中のプロジェクトもこのスタイルで進めています。ホーチミン近郊のリゾート地での温泉施設のプロジェクトです。企画段階では、さまざまな分析から施設の在り方やテーマを提示し、12万㎡の敷地に対して、8つの特色を持ったエリアに分けてサイトプランをつくりました。現在は、建築、内装、ランドスケープ、サインなどの設計段階に入っています。ランドスケープデザイナーや照明設計、設備設計などの各専門家とともに協力しながら、プロジェクトを進めています。日本や中国とは違った気候、文化、風土やルールがあり、日々、新たな問題にぶつかりながらも手探りでひとつひとつ解決しながら、少しずつ前に進んでいくといった感じでやっています。

今後は、自分たちの強みや特徴、ネットワークを活かすことで、上海、東京、ホーチミンを起点として、アジアに展開していくことを目標にしています。

国は変われど、日々プレゼンや図面提出などの締切に追われている毎日を過ごしているのでも、とにかく楽しみながら、また、楽しんでもらえるような仕事を続けていきたいと思っています。



## 明日も良い音楽を



つばき なお  
建築 直義

1990 年卒（初見研究室出身）

【執筆者略歴】

有限会社 ビービーエム代表取締役／音楽プロデューサー

(株) ジャニーズ出版、(株) バイオニア LDC (現ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン) にて原盤制作ディレクター、A&Rなどを務めた後、1999 年に音楽制作会社、(有) ビービーエムを設立。制作者としてのスタジオワーク、マネジメントはもとより、自らエンジニアリング、作編曲、マニピュレートなども手掛ける。

「東京のおじちゃんはどうだ？」

これは 25 年以上前の話だけど、CD ジャケットに写っている光 GENJI のメンバーを眺めながら、幼い頃の姪っ子が母親（＝姉）に尋ねたそう。それに対して姉は「おじちゃんは光 GENJI じゃないのよ。光 GENJI のお仕事はしてるけど、何しているかはよくわかんない」と、返事をしたらしい。

これは今現在の話だけど、親戚から何度となく、「音楽制作って、結局のところどんな仕事してるの？」と尋ねられる。色々説明すると、「ふーん。なんかわからないけど大変そうな仕事ね」などという微妙な感想が返ってくる。

自分が何者であるかを一言で説明するのは確かに難しい。音楽を作っていると言っても、曲を作っているのは作曲家だし、演奏しているのはミュージシャンだし、人前でパフォーマンスしているのはアーティストだ。

おまけに独立してからは世知辛い音楽業界の事情（大概是予算の問題）とも相まって、事務所をスタジオにして自前で録音したり、ゲームの BGM を作編曲したり、コンサート会場で舞台監督のようにステージ進行を司ったりと、自分が何者であるかというより何でも屋であるような有様。

ただし、相手が建築学科時代の同級生だと途端に答えは容易になる。「プロデューサーは基本設計をする建築家で、ディレクターは現場を管理している設計事務所の担当者。既に発売されている音源をコンサート用に作り直すのはリフォームのような作業って感じかな。あ、あゝ時には職人と一緒に壁を塗ったりするでしょ？僕も曲作ったり、ちょっと演奏したりするよ」…というように。

建築よりも音楽に一生懸命だった学生時代には気づかなかったけど、ミュージシャンになることを諦め、とある超有名芸能事務所傘下の音楽制作会社で働きだした頃、音楽と建築はとても似ていると感じるようになった。

クライアントの意向、敷地の条件、様々な過程で関わる専門家が多岐に渡ることで、そして予算や工程の制限などなど。一つの建築物が立ち上がっていく際に起こること、考えなければならないことのそれらは、音楽で言うところのユーザーやファンのニーズであったり、その時々での流行り廃りであったり、沢山のミュージシャン、スタッフとの関わりであったり、そして予算の縛りはもちろんのこと、CD の発売日やコンサート本番に向けた様々なスケジューリングと同じことなのだ。

とある辞典によれば、“制作とは演劇、映画、音楽作品などを作成、発表する過程において芸術、実務の両面に渡る活動一般をいう”とある。この“芸術、実務の両面”というところがミソで、格好良く言えば理想と現実を結びつける仕事なのだ、特に最近、そう思うようになった。

卒業後に勤めた設計事務所をたった一年で辞めてしまった僕が言うのも相当おこがましいけど、建築を学び、そしてほんの僅かな日々だけでそれに携わったことは今も何かの形で生きていると思う。

アーティストやミュージシャンに少くくサイなどと思いつつ、メールやメッセージの文末に添える言葉がある。

“明日も良い音楽を”

こう書くことで自分にも言い聞かせているわけだけど、それはまさに新しい設計課題を与えられ、真っ白なスケッチブックにデッサンをしようと思案しているあの頃の自分を忘れないでいることなのだ、今、この拙文を書いていて気づいた。

さあ、仕事に戻ろう。

## ものづくりの楽しみ



ふじい ちあき いざき めぐみ  
藤井 千晶・井崎 恵

2005 年卒（初見研究室出身）

【執筆者略歴】

2005～2011 年

アーツ&クラフツ建築研究所勤務

2012 年 [andfujiizaki 一級建築士事務所] 設立  
<http://andfujiizaki.jp/>

2019 年 2 月 [andfujiizaki 株式会社] 設立

2019 年 4 月

佐渡島の「色とりどりの暮らし」を旅する体験ツアーや空き家を利活用した宿「カラーなふるさと＝カラふる」の運営を開始

「藤井です。井崎です。アンドフジイザキです。」少々照れるこのフレーズで自己紹介をするようになって早 8 年。

設計事務所勤務 7 年目の春に 3.11 大震災が起き、自宅待機が続く中で無力感を感じていた私たちは、お声がけいただいた店舗設計をきっかけに「できることがあるなら、やってみよう。」と活動を始めました。

学生の頃は意匠設計者がデザインの殆どを担うのだと漠然と思っていましたが、実際の現場に携わり、ものづくりにはチームワークがとても大切だと感じるようになりました。クライアントの引き出しから想いやアイデアを引っ張り出し、自分たちの考えを重ね、構造/設備設計者や施工者さんなど計画に関わる方々との対話を重ね、デザインが育っていく過程を楽しんでいます。



近年では佐渡島において、文化的景観要素となった木造校舎の

観光ガイドランス施設へのコンバージョン、空き家を利活用した宿の運営に携わっています。建物はいわゆる『限界集落』にあり、忘れ去られてしまいうような遺物でした。活用方法を模索するため集落で話し合いを重ねたり、田植えやレンコン堀り、伝統行事のお祭りなど日々の暮らしを積極的に体験させていただくうちに、来島の度に「おかえり」と声をかけてくれたり、旬の食べ物を届けてくださるような繋がりもできました。

そんな方々との対話の中には新しい発見やアイデアの種がたくさんあります。

住む人にはずっと昔から当たり前の暮らしの営みが、私たちにとても魅力的に映り、大自然の中で驚くほど気持ちがりフレッシュされる喜びを感じます。四季折々の自然、多様な伝統文化、旬の食べ物、十人十色な人々と建築に触れる体験は、色鮮やかな映像として心に残ります。そんな古き良き“色とりどりの暮らし”を未来に伝え残していけるような取り組みをしていきたいと考えています。建築デザインとはかけ離れているようでいて、想いを汲み取り形にする点は似通っており、今後どのような形につながっていくのか楽しみです。



“&で様々な人・モノ・コトとつながるものづくり”

『〇〇&フジイザキ』と並列に名前を書くだけでチームになる、他力本願にもみえる頼りなさもポジティブにとらえ、コラボレーションの計り知れない力を信じ、これからも精進していきたいと思えます。

先輩後輩のみなさま、コラボレーション要請の際はぜひ温かく迎えていただけたら嬉しく思います。

andfujiizaki 一級建築士事務所 藤井千晶 / 井崎恵



## ■ 2019 築理会野田建築会合同新年会

山崎 晃弘 (1976 年卒上原研)

恒例となりました標記の合同新年会は 4 回目を迎え、2019 年 1 月 16 日 PORTA 神楽坂・理窓会倶楽部にて、出席者 57 名 (築理会 44 名、野田建築会 13 名) をもって盛況のうちに滞りなく終了しました。

出席の方には厚く御礼いたしますとともに、引き続き野田建築会へのご参加をよろしく願いいたします。



## ■ 2018 年度 NAA メールマガジンの中で最もいきいきとした感性あふれる文章に対して贈る「第 1 回ヤマザキ賞」に、舟越利紗 (修士 2 年井上研) さんが決定しました。

山崎 晃弘 (1976 年卒上原研)

### メールマガジン (20180727 発信) 本文「就職活動を終えて」舟越利紗 / 修士 2 年 井上研究室

今回は私が就職活動で感じたことを書かせていただきます。私は放送業界を中心に就職活動を行っていました。よく、なんで建築なのにテレビ局?と聞かれます。私は幼いころからテレビっ子で、テレビのセットデザインに興味があり、テレビの美術職になりたかったこともあり建築を専攻しました。しかし学部時代の設計の授業を通して意匠の道は諦めました。エンジニア系の中で一番環境に興味があったので現在の研究室に所属しましたが、テレビの仕事をしたい想いは断ち切れず、技術職という職種に方向転換して就職活動に臨みました。

また、視野を広く持ちたいと考え、放送をはじめ、ゼネコン、設計事務所、インフラや鉄道など、1 月までに約 20 社以上のインターンに参加しました。インターンや OB 訪問等を行うと、自分の中での譲れない条件などが明確になってくると思います。視野を広げたいので、やっぱり放送に行きたい!と強く思ったのでモチベーションの向上にも繋がりました。

また、やりたいことがわからないと言う後輩もいますが、それならば自分の研究室からはこの業界に行く人が多いという固定観念を無くし、少しでも自分が興味ある業界のイベントに参加するのも刺激的だと思います。就職活動の場で違う大学の人と出会うと、その視野の広さや人間力の高さに驚くことが多々ありました。その点、理科大生は保守的な人が多い印象を持っています。後輩には、就職活動という様々な業界や社員の方、他大学の学生と触れ合える絶好の機会を無駄にしないで楽しんでほしいと思います。

大学生活も気づけば 6 年目となり、4 月からは新社会人として、新しい環境に身を置きます。早く一人前の社会人になれるよう残りの学生生活も精進して参りたいと思います。

### 編集後記

今回、野田建築会 20 周年特集号ということで、リレー式コラム「NAA COLUMN」を新コーナーとして企画しました。建築に限らず様々な業界で活躍する野田建築会会員の声をお届けするコーナーになります。第 1 回目から、とても楽しいコラムをご寄稿いただきました。次号以降もぜひ楽しみに。(とりやまあきこ)

NAA 賞の受賞者の一覧を作成するにあたり過去の会報を振り返ってみて、20 年の歴史の重みを実感しました。諸先輩方の努力の積み重ねを引継ぎしっかりと次の人達にバトンを渡さないといけません。その引継ぎに少しでも貢献できるように微力ながら頑張ります。(大野)

### 会費納入のお願い

NAA では会則により、2019 年度 (2019 年 4 月 1 日 ~ 2020 年 3 月 31 日) の普通会員年会費として 3,000 円を徴収しています。これらは会報の発行、OB と語る会の開催、見学会等の研修、NAA 賞の授与、NAA サイトの維持その他 NAA の活動に有効に活用されています。こうした NAA の運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。  
(注) 年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記 HP でお問合せください。

### 野田建築会会報 VOL.41 2019 SPRING

2019 年 3 月 1 日

編集: 会報部会 (とりやま あきこ / 大野 芳俊)

発行: 東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

